

支援センター名	新居町体験活動ボランティア活動支援センター	
所在地	〒431-0303 静岡県浜名郡新居町浜名519-1	
連絡先	Tel 053-594-8116	Fax 053-594-8120

事業の概要とポイント

学校週5日制の完全実施に伴い、地域で子どもを育てる環境づくりが求められるようになった。そこで当町としても地域の子もたちにボランティア活動や体験活動に関する情報を提供し、進んで活動する意欲を高めるとともに、地域の大人たちの教育力と自然や文化財を生かした体験的な活動の機会を提供できるようにしていきたいと考えた。また、高校生を中心とするボランティアグループを組織し、異なる世代の人々とふれあいながらボランティアを体験し、地域社会のために役立つ喜びを感じることができる機会を増やしていきたいと考えた。そこで支援センターの事業として、生涯学習広報紙の発行、小学生チャレンジクラブの実施、青少年ボランティアを中心とする各種ボランティア活動の実施などを行った。

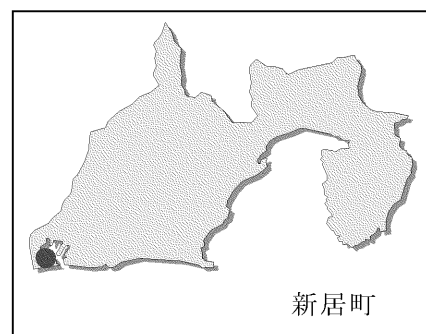
関係した学校・団体等の名称

新居町立新居小学校、新居町立新居中学校、静岡県立新居高等学校ほか周辺公立・私立高等学校、青少年ボランティア「助っ人」、小学生チャレンジクラブ

地域の現況・特色

活動対象地域の人口 新居町 17,545人

新居町は浜名湖の南西に位置している。現在は新幹線や東海道本線、国道1号線が町を東西に横切っているが、古くは慶長5年(1600年)に徳川家康によって今切関所が設置され、また東海道五十三次の宿場としても栄えるなど昔から東西の交通の要衝であった。関所の面番所は全国で唯一江戸時代のもので現存しているもので、貴重な文化財であるとともに町のシンボリックな存在となっている。また町の中心部は今でも宿場町のころの路地で町が区分けされ、コミュニティが形成されている。子どもたちもこの中で地域の大人たちと様々な機会を通じてふれあいながら生活しているが、最近の核家族化や少子化、中心部から郊外へ転居する世帯の増加などにより、以前に比べると地域の大人たちとのふれあいや異世代との交流体験の数は減少してきているように思われる。



企画から活動までの経緯

平成16年3月	高校生を中心とする青少年ボランティア「助っ人」の参加メンバーに次年度も継続して参加できるか確認するとともに、新高校1年生となる新居中学校3年生に対して説明会を開催し、募集を行った。
4月 1日	生涯学習広報紙「新居町生涯学習だより」を発行。（毎月1回発行）
4月	小学生チャレンジクラブの募集チラシを配布、受付を行う。（25名登録）
5月	県立新居高等学校の新1年生を対象に青少年ボランティア登録者を募集、受付を行う。（新居中学卒業生、継続登録者と合わせて22名が登録）
5月15日	小学生チャレンジクラブが活動を開始（12月まで全8回活動。うち6回に青少年ボランティアが活動サポートとして参加。）
7月	新居町生涯学習だより7月1日号と7月20日号において新居関所史料館特別展監視、ならびに発掘された文化財整理にあたる「新居町歴史ボランティア」の募集と受付を新居小・中学生と青少年ボランティアのメンバーに対して行った。（青少年ボランティア11名、中学生5名、小学生8名） 特別展監視ボランティアが活動を開始（8月末まで）
8月 4日	新居町歴史ボランティアが文化財資料の整理と活動を開始。全3日間で、発掘した文化財の水洗い、分類、計測、修復等を行った。
12月27日	成人式支援ボランティアの事前研修（青少年ボランティア14名が参加）
平成17年 1月	成人式支援ボランティア活動（青少年ボランティア15名が参加）

事例の展開内容（特色など）

地域の子どもたち向けに「新居町生涯学習だより」を月刊で発行し、町内でのボランティア活動や体験活動の情報を掲載した。小学生チャレンジクラブや青少年ボランティアについてもこの広報紙を通じて活動の様子を紹介したり、参加の呼びかけをしたりした。また長期休業前にはボランティア活動への参加申し込み用紙を折りこみ、希望者はそれに必要事項を記入して学校に提出するだけで掲載されたボランティアに参加できるようにした。パソコン等が普及する中でホームページによる広報と参加受付という方法も考えられたが、すべての子どもが情報を得て、参加できるようにあえて紙メディアという手段を用いた。



小学生チャレンジクラブは、4年生から6年生までを対象に参加募集を行った。プログラムは郷土の自然や文化財を生かした体験的な活動を取り入れ、郷土のよさを見つめなおす機会とするとともに、地域の一員としての自覚を高めることを目指して次のように作成した。指導者は優れた技能をもつ地域の大人に依頼をし、青少年ボランティアがそれをサポートするという形をとった。

回	開講日	会 場	主 な 内 容
1	5月15日 (土)	新居町民センター	開講式 陶芸体験「記念の皿やカップをつくろう！」1
2	6月19日 (土)	新居町民センター	陶芸体験「記念の皿やカップをつくろう！」2 地元で生まれたスポーツ「ペタボード」に挑戦しよう
3	8月18・19日 (水・木)	表浜	海水から塩を作ろう！
4		浜名湖今切パーク海湖館周辺	できた塩を使って塩おむすびを作ろう！ 海岸をきれいにしよう！
5	8月26日 (木)	港町ビオトープ 浜名湖今切パーク海湖館	干潟を観察しよう！ 海藻押し葉でしおりをつくろう！
6	10月2日 (土)	新居関所史料館 新居宿旅籠紀伊国屋資料館	新居関所史料館と新居宿旅籠「紀伊国屋」資料館を見学しよう！ 煎茶のマナーを身につけよう！
7	11月6日 (土)	三十ヶ谷の森 (浜名湖ユースホテル周辺)	里山の自然を観察しよう！ 山の葉を押し葉にしてしおりをつくろう！ ニュースポーツ「グラウンドゴルフ」に挑戦しよう！
8	12月18日 (土)	新居町民センター	閉講式 正月飾り（輪締め）をつくろう！

ボランティア活動については高校生を中心とする登録制の青少年ボランティア「助っ人」と、長期休業中等にその都度募集するボランティアの2本立てで行った。青少年ボランティア「助っ人」は登録者のところにボランティアの活動予定を送付し、登録者が参加できるものを選んで申し込みをし、参加するという形で行った。自分の空いている時間を選んで参加できるということで、部活動等で多忙な高校生も練習の合間を縫って参加し、子どもたちの体験講座や成人式の運営サポートを行った。

長期休業中のボランティアについては新居関所史料館特別展監視や発掘出土品を分類・整理する「新居町歴史ボランティア」を募集し、実施した。青少年ボランティアのほかに新居小・中学校の子どもたちにも生涯学習だよりで参加を呼びかけた。こちらも子どもたちの都合のいい時間を選んで参加できるようにしたため、子どもたちは部活動や習い事のない時間を選んで活動に参加した。

発掘出土品整理の活動は町内の関所周辺や旧東海道沿いから発掘された出土品を水洗い



し、計測したり、石膏を使って修復したりするという内容であった。地中に埋まっていた江戸時代以前の陶器の破片や貝殻等に直にふれるという体験は子どもたちに強い印象を与えたようで、特に小学生たちは作業をしながら「これ何年前のもの？」「どこから出てきたの？」と文化財担当職員に質問をしたり、江戸時代以前の新居町の様子や人々の暮らしについて話をしたりする姿が見られた。子どもたちにとってかけがえのない夏休みの体験になったものと思われる。

なお、この活動は小学生から青少年ボランティアの高校生まで一緒になって行った。短い時間ではあったが共に言葉を交わしながら活動することで、異年齢との交流も深めることができた。

企画・活動する上でのポイント、留意点など

小学生チャレンジクラブは現在の形で活動するようになって16年度で2年目であるが、15年度に参加した児童が引き続き申し込み、参加する傾向が目立った。子どもたちの参加意欲を高め、新たな感動を与えるためにも、常に新しい活動プログラムを開発し続けていく必要性を感じた。支援センターの教育委員会事務局職員のアイデアだけではなく、社会教育協力員をはじめとする町民のアイデアを多く取り入れながら子どもたちにとって魅力があり、得るものの多い活動プログラムを充実させていく必要がある。

ボランティアについては活動すること自体には抵抗がないが、グループに所属するということが敷居の高さを感じたり、部活動や習い事との兼ね合いで時間がとれなかったりして参加をためらう傾向があるように思われる。敷居を低くしていくためには日常の広報活動を充実させ、ボランティアグループの存在や活動の様子を募集段階より前に子どもたちに広報したり、説明する際に身近に感じられる工夫をしたりすることが大切だと思われる。また、今回の歴史ボランティアのように多様なジャンルの活動を用意し、子どもたちが選択できるようにすることで参加への意欲を高めることができるように思われる。また部活動や習い事等で忙しい子どもたちのスケジュールに入り込むためには、日や時間を緩やかに設定して、都合のよい日、時間を選んで参加できるようにしていくことが必要である。

評 価

生涯学習だよりにボランティア活動を紹介したり参加申し込み書を折り込んだりしたため、開始1年目の歴史ボランティアにも多くの子どもたちの参加が見られた。また歴史ボランティアに参加した中学3年生の中で、卒業後に今度は高校生を中心とする青少年ボランティアの方への加入申し込みを出す子どもも見られた。ボランティア活動への敷居を低くするためには、広く情報を提供すること、身近さを感じさせること、手軽に申し込みができるようにすること、多様な活動の機会を提供し、小さなことでもまず一つ経験させ、次へつなげられるようにすることなどが重要だと感じた。

またボランティアの活動内容についてであるが、上述したように歴史ボランティアと称して関所史料館特別展監視や発掘出土品整理などのボランティアを初めて取り入れてみた。ボランティア精神を育てることのほかに、自分たちの郷土の文化財に直接ふれることにより、それらを大切に守っていこうとする心や郷土への理解と愛情を深めることができたように思う。今後も様々なボランティアの形を模索し、子どもたちに取り組みでもらえるよう機会と情報を提供していきたい。

執筆者職・氏名： 静岡県浜名郡新居町 教育委員会事務局主任 高須 昌直